

# 2022年度 学校評価(自己評価)

学校法人 相愛学園  
武蔵野相愛幼稚園

当園教職員の自己評価により、2022年度の保育の総括と園運営についてまとめました。これを受けて、次年度も保育の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## I. 園の教育目標

武蔵野相愛幼稚園の建学の精神である「相愛」(互いに愛し合ひましよう)の実践の場として、キリスト教を基盤とする保育を行う。  
礼拝や日常の保育を通して、目には見えない神さまを知り、神と人ともに愛されている存在として安心して過ごし、希望をもって生きることを大切にする。また、周囲の人々と喜びや悲しみの感情を共にする生活の中で、すべての人が神さまから愛されているかけがえのない存在であることを知り、互いに尊重する関係へと育ちあうことを願う。一人ひとりの子どもが、その子らしさを大切に、友だちや保育者と出会い、満足するまで遊ぶ体験を重ねることを通じて、共に生きることの喜びと自信を培う。

## II. 2022年度の重点目標

保育の年主題に、「つながって ～今、わたしを生きる～」を掲げ、旧約聖書詩編121篇7節～8節「主がすべての災いを遠ざけてあなたを見守りあなたの魂を見守ってくださるように。あなたの出で立つのも帰るのも主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。」の聖句を中心に据えて、園児、保護者、保育者が、神さまにつながって安心して過ごす一年としたい。コロナ禍も三年目。礼拝や年間行事への保護者参加の呼びかけ、母の会、父の会の活動などを通して、神さまや人、環境とつながる喜びと価値に気づき、育ち合う保育の日々とする。

## III. 2022年度の評価項目の達成 及び 取り組み状況

### 教育課程

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<b>1,教育目標</b>  園児数減少というマイナスに捉えられる状況の中で、子どもたちがこれを軽やかにプラスに転じさせてくれた一年であった。互いに個性を理解しあい、かかわり合い、寄り添うことを繰り返す毎日。 特に、子ども同士の関わり合いに、保育者たちが学ぶことが多く、年度の後半は、年主題の「つながって」を改めて思い起こすことが多かった。 同じ年齢の子ども同士・他学年の子どもとの係わり中で、子どもと保育者・子どもと保護者・保護者と保育者・保育者と保育者とつながり、育ちあった一年であった。	A	今、成長出来る部分はどこかを検証しつつ進む。 先ず保育者が、子どもの暮らしの良かった点を一緒に喜び、添う者になる。理解しようとする者になる。 子どもと恐れずに向き合ってみる、振り返ってみる。そして、保育者同士で共有し、検証し、また子どもに向き合ってみる。この繰り返しを怠らないことが重要と感じる。
<b>2,保育日数・保育時間</b>  保育日数 185日 年少組：4/11～4/18 9:00～10:30 4/19～4/25 9:00～11:00 4/26～5/9 9:00～11:30 5/10～5/31 月・水・金→9:00～11:30 火・木→9:00～13:00(弁当あり) 6/1～ 月・火・木→9:00～13:30 水→9:00～11:30 金→9:00～13:00 年中・年長組：月・火・木・金→9:00～14:00 水→9:00～11:30	A	各家庭の健康管理の意識の高さや協力もあって、休園や学級閉鎖も無く、保育を全うできた。 また、預かり保育の子どもたちの疲れ具合や、心の満たされ感を考えると、この年齢の子どもたちにふさわしい保育時間がみえてくる。

<p><b>3,保育の計画と実践</b></p> <p>コロナ禍であるから「できない」ではなく、「できることを考える」を大切にしながら保育してきた。社会における新型コロナウイルス感染症の行動制限が緩和されていく中で、保育もできる限り行事や保護者の係わる機会を増やしていく。日常の保育では、消毒や手洗いうがいの重要性を伝えながら、子どもたちがのびのびと過ごせる環境を設定していく。自然豊かな園庭の環境維持の為、保育者は、園児と共に水やり、追肥、草抜き、間引きを行う。また、造園業者に依頼し、樹木の剪定・伐採等をし、環境整備に努める。園児が自然に興味関心を持ち、飼育を通して命の尊さが感じられるように生き物を飼育している。</p>	<p>A</p>	<p>一番大切な保育の振り返りと準備に使う時間を確保する。保育経験の差によって生じる不足を互いにカバーしあいながらも、一人一人の保育者の今だから出せるそれぞれの精一杯の力を持ち寄って保育を作っていく。四季折々の草花(藤の花びらや黄花ジャズミンの花びら、さくらんぼなど)は、鑑賞するだけに留まらず、砂や泥のごちそうを飾る装飾としても、園児の遊びを豊かにしている。セキセイインコ、金魚、昆虫(カブトムシ・ダンゴムシなど)の飼育を通して命の不思議さに出会ったり、癒されたりしている。また、飼育当番に当たった園児は、餌遣りや水の取り換えなど、楽しみに責任をもって、任務を遂行している。</p>
<p><b>4,行事</b></p> <p>コロナ感染症との付き合いの中で、不足を嘆かず今出来ることを楽しむ力が保育者の中に育ったと感じる。運動会やひなまつりは、保護者や祖父母を招いて実施した。特に保護者は、コロナ禍になってから幼稚園の様子を知る機会が減っていたため、参加事を行えたのは良かった。年長組の奥多摩キャンプはコロナ感染者数の推移を見ながら、6月から10月に延期して実施した。</p>	<p>A</p>	<p>卒園生の集う同窓会は、園舎内に入る人数の多さを考えて開催は見合わせた。屋外で行う運動会や新型コロナウイルス感染症の感染者数が減少傾向の秋冬の収穫感謝祭やもちつきは再開した。感染対策はその都度できることを考えて行った。また、年長キャンプも奥多摩福音の家に宿泊した。それぞれの行事で、クラスの仲間意識を育んだり、自然と触れ合ったりするなど、子どもたちは成長に欠くことのできない貴重な経験をした。</p>
<p><b>5,保育の在り方・幼児への対応</b></p> <p>一人ひとりが愛されていると感じ、安心して自分らしく過ごせるように努める。様々な仲間と係わる中で、思いを発信したり、相手の思いに気づいたりする大切さを知る。一人一人を尊重する気持ちを示していく。</p>	<p>A</p>	<p>子どもの良いところを見つけ自信をつけること。また、こどもと一緒に課題に向き合い、改善していけるよう努力してきた。</p>
<p><b>6,保護者への対応</b></p> <p>クラスの枠にとらわれずに、保育者全員で、どのクラスのことにも心かけ考えていくことができ始めている。園と家庭での様子を共有し、共に子どもを育てていく意識をもって過ごす。また、行事に招いて普段子どもたちが楽しんでいることを一緒に楽しんだり、頑張っている姿を見たりして、子どもの育ちを共に喜ぶ。</p>	<p>B</p>	<p>子どもや保護者を責めるような気持ちで話をしない。一人ひとりの子どもを尊重する気持ちを示していく。保護者の在り方も尊重し、理解していく。そこから、今考えるべきことを示し、共に考えていく。子どもとの係わりの良かったことの蓄積を保育者がしていくと、保護者への声掛けに説得力が出てくる。</p>
<p><b>7,保育者の研修・資質向上</b></p> <p>日々の保育に忙しくしながらも、園全体で保育の質を上げていくために、出来る限り研修会に参加する。</p>	<p>B</p>	<p>自宅からオンデマンドの研修会に参加したり、少しずつ再開してきた対面での研修会に参加したりした。今後は、研修会で個々が学んだことを全体で共有する時間を設けられるようにしたい。園内研修は定期的に行っている。外部の研修は自分で選んで受けるので、良い面もあるのだが、学びたい内容が偏ってしまったり、日々の忙しさを理由に研修の機会を逃すことも多かった。</p>

## 学校運営

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<p><b>1,組織・園内分掌・会議</b></p> <p>園長と主任が中心となって、職員一同で保育の計画を進めていく。 効率を求めつつも、共有の気持ちを忘れない。 小さな幼稚園の小さなほころびは許されないことをより自覚する必要がある。</p>	B	<p>日ごろの保育の様子を本務教員は共有できているので今後も続けていきたい。だが、パートタイムの保育者との情報共有が2022年度も難しかった。また、定期的に行う園内研修の時間確保が難しいので、スケジュールに余裕を持って臨みたい。経験年数に関係なく、意見を出し合える環境をこれからも大切にしていきたい。</p>
<p><b>2,出納・経理</b></p> <p>2022年度は光熱費高騰のため、急遽、都と市により新たな補助金が設けられた。2月以降の交付申請であったため予算案作成とも重なり、日常の伝票処理が滞る事態となった(春期休業中にリカバー)。</p>	A	<p>園児数の減少が今後会計にどのように響いてくるのか、2023年度は注視する必要がある。 日常に追われることなく、安定した運営のために成すべきことは何か、考えていきたい。また、引き続き各種補助金への対応を丁寧に行っていきたい。</p>
<p><b>3,施設・設備</b></p> <p>園庭、園舎内の点検を定期的に行い、子ども達が安全に過ごせるように環境を整える。 物を大切に扱うこと=人の心を大切に扱うこと。この気持ちを保育の中でも忘れずに持つことが大切である。</p>	B	<p>今年度は小麦アレルギーの園児がいたので、毎年、新学期に使用している小麦粉粘土を中止し、米粉粘土を使用した。また、年少の部屋の扉とテラスの大窓の開閉が歪んで難しくなっていたので、年度末の春期休暇の際、業者に修理してもらった。</p>
<p><b>4,健康・安全</b></p> <p>園児と保育者全員に「健康カード」を配布し、毎日の検温を徹底する。また、園内に保護者の出入りがある場合、保護者にも検温を依頼する。また、感染拡大防止対策として、家庭内で体調不良の者が出た場合は、欠席ではなく出席停止扱いとし、無理して登園しなくても良いということを伝えていく。</p>	A	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、換気を徹底すること、食事の前の手指消毒、食事中の子どもの座席配置を考えながら過ごしてきた。 また、ぜんそくの子どもやアレルギーの子どもなど、情報の漏れがないように、皆で確認をしていく。</p>
<p><b>5,情報</b></p> <p>ホームページやブログを用いて、幼稚園の様子を発信する。必要があれば、メール配信で保護者や教職員へ情報共有を行う。</p>	B	<p>保護者に日頃の保育に参加していただく機会が減ってしまったので、ホームページやブログを使って情報発信に努めた。入園希望の方には、YouTubeに幼稚園を紹介する動画をアップした。情報漏洩を防ぐため、限定公開にして、保護者にも取り扱いには注意するようにお願いをした。</p>
<p><b>6,開かれた幼稚園</b></p> <p>なるべく園の行事に保護者を招き、子どもの育ちを身近に感じられるようにする。また、園だよりや保護者会、降園前のお知らせで、子どもの様子を伝える。たまごの会は、月一回になったが、人数が多く充実した時であった。 保育参加が三年間出来ていないことは残念。</p>	B	<p>昨年度に比べて、父、母、また、祖父母が参加する行事や礼拝を行えたが、実施出来なかったものに関しては、ブログやYouTubeを用いて発信していった。社会の状況を見ながら、今後は保育参加も再開していく。</p>
<p><b>7,保護者会・母の会・父の会</b></p> <p>各学年ごとの保護者会と毎学期に一回、全学年が揃っての全体保護者会を設ける。 ”母の会”は、新しい名称を公募して、”オリーブの会”に愛称が変更になった。オリーブの会の活動は、保護者が時間を決めて集まり、できることを考えながら進める。11月は、幼稚園と父親代表が企画し、親子が公園に集まって遊ぶ”ファミリーデー”を実施する。</p>	A	<p>母や父たちが絵本の読み聞かせや劇、ままごとに使う洋服やエプロンの制作、外国の歌遊び等の企画を考え、実施していただき、子どもたちも大いに喜んだ。</p>

<p><b>8,園児募集</b></p> <p>入園説明会は、園の様子が肌で感じられるように園に足を運んでいただくことを原則とする。子どもの様子を写真のスライドショーで見せながら伝え、幼稚園での生活を感じていただけるようにする。 園児募集の厳しい時代。小手先のはやりすたりに惑わされない保育理念の実践と新しいことを吸収する柔軟さを求められている。</p>	B	<p>昨年同様、入園説明会当日、来園が難しい保護者、また、説明会後に転居していらした方に向けて、園の様子がわかる写真や動画、テキストを用いて動画を作成した。</p>
<p><b>9,教育実習</b></p> <p>感染対策を講じながら、実習生を受け入れる。コロナ禍の中で上手く波に乗れない学生がいることも実感した一年だった。</p>	B	<p>実習生の心に「幼稚園は楽しいところ。子どもは愛すべき存在」という感覚を育みたい。</p>

## 社会貢献

取り組み状況	評価	評価と改善に向けて
<p><b>1,地域との連携</b></p> <p>卒園生のお母さんや近隣の方から農作物の育て方を教えていただいた。 小学校に足が向きにくい卒園生との関わりがあった。</p>	B	<p>七夕の笹を、卒園生所有の竹林に切り出しに行ったり、年中のスペシャルデーでは、卒園児の兄姉が営むパン屋で購入したパンを食べたりした。今年初めて、ブロッコリーと枝豆の栽培に挑戦して収穫し、子どもたちと喜び合えた。 卒園生や保護者の心のケアの重要性を感じる。出来ることはやりたいと思う気持ちと、保育者の仕事内容が増していくことへの不安も感じてしまう。</p>
<p><b>2,保育の公開</b></p> <p>今年度も保育参加ができなくて残念だった。けれども、園外へ出かける機会が増している。子供の声を耳に、目にすることで、地域社会の人々にはここで生きる子どもがいることを感じてほしい。また、ホームページや武蔵野市の情報サイトを通して未就園児や卒園児の家庭にも幼稚園の様子が伝わるようにする。</p>	B	<p>新型コロナウイルス感染防止をした上で、見学者や外部の人々の来園を少しずつ再開した。それ以外でも、ホームページを用いて、保育の公開も行った。地域に愛される子どもたちを育てることが相愛の保育を広く伝える方法とも考える。</p>
<p><b>3,各種研究会への協力・支援</b></p> <p>園長は、キリスト教保育連盟講習会委員長、東京都私立幼稚園連合会教育研究委員として、研修会の企画と運営に携わる。 また、幼稚園としても、各種研修会に積極的に参加・協力する。今年度はキリスト教保育連盟関東部会西地区の役員当番園となった。</p>	A	<p>キリスト教保育連盟の西地区の研修会では、講師に長山篤子先生をお招きすることになったので、武蔵野相愛幼稚園を会場として提供した。 仕事を効率的に進め、研修会に気負わず参加出来る職場になるように努める。</p>

## 結果について

- A 十分に達成されている
- B 達成されている
- C 取り組んだが、成果が十分でない
- D 取り組みが不十分である

## 2023年度 今後へ向けて

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に引き下げになるのを受けて、保育内容について今一度丁寧に検討し、子どもたちが豊かな経験を積み重ねられるよう計画していきたい。また、預かり保育を利用する園児の保護者に対して、連絡事項をもれなく伝えるよう注意が必要である。近年の少子化による園児数の減少を考えて、今年のことだけではなく、来年度、再来年度の子どもの姿を想像しながら当年度の保育に向かわなければ幼稚園の保育力が先細りになっていくであろう。少人数だから出来る一人ひとりとの丁寧な係わりを大切に、また、子どもとのやりとりのおもしろさを感じながら励んでいきたい。